

# 宿魂石

**む**かし、鹿島の神の武甕槌命と香取の神の経津主神が、国の秩序を乱す者をおさえ、常陸の国を平和に治めようとしておりました。

ところが久慈の大甕山の石名坂を支配していた香香背男は、ひどく乱暴な神で、逆らってばかりいるのです。鹿島と香取の神様は、たまりかね、とうとう武力をもって服従させようとしたのですが、香香背男は

妖術を使って、自分の姿を大きな岩に変えて抵抗し始めました。

岩はどんどん大きくなり、いつのまにか、山よりも大きく、雲をつきさくばかりに高くなり、そのうち天にも届くかと思われるほどになっても止まるようすがありません。

ついには、天照大神をはじめ多くの神々のすむ高天原に攻めこむばかりの勢いで、こんどは高天原の神様たちが困ってしまいました。

それを聞いた倭の里（現在の那珂郡瓜連町）の建築槌命は鎧兜に身を固め、石名坂にかけつけると、その巨大な岩を金の沓で思いきりけとばしました。

岩は大きく三つに割れて、一つは石塚（常北町）に、一つは石神（東海村）に、もう一つは石井（笠間市）に飛んでいきました。現在、大甕神社に残っている巨石が、その根だといわれ、香香背男の魂の宿った石「宿魂石」として言い伝えられています。

